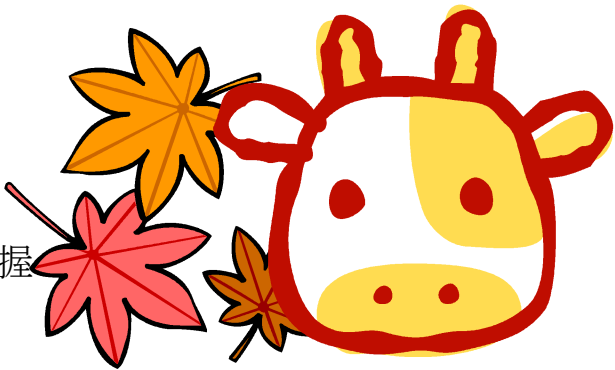


牛群検定の利活用などについて、解説記事を掲載しています。

- 1 デーリイマン 12月号 デーリイマン社
牛群検定の読み方（その27）
全体を見やすくして新たな指数も追加した「牛群改良情報」
技術ワイド 効率良く繁殖成績を高める
牛群検定で繁殖管理をチェック
受胎率だけでなく実空胎日数で発情見逃しや鈍性発情を把握
- 2 L I A Jニュース11月号 （一社）家畜改良事業団
牛群検定ビッグデータ（その36）
新しいNTPについて 新旧NTPの比較



冬季の分娩管理にご注意を！

検定成績表（個体検定日成績）

牛 コード	分 娩				搾 乳 又は 乾 日 数	今	
	年 月 日	産 次	産子 性別 (歳 - 月)	難 易		1回	2
7713	200713	1	♀	3	17	13.4	12
7708	200629	1	♂	1	31	18.4	16
7525	200628	4	♀	1	32		
7705	200323	1	♀	1	129		9
9178	200317	10	♂	1	135		5
7228	200307	8	♀	1	145		3
7221	200224	7	♀	1	157		9
7702	200220	1	死産	1	16		
7231	200110	8	死産	1	202		7
7701	200102	1	死産	1	210	16.2	14
7683	191219	1	♀	1	224	9.0	8
7703	191219	1	♀	2	224	11.8	10

左図は検定成績の2枚目にある個体検定日成績です。成績表上での牛の並びは分娩順(搾乳日数順)となります。言い方を変えると、分娩した季節の順番とも言えます。

このような見方で左図の農家例を見ると、昨年の1月2月ごろの冬季の分娩に「死産」が多いことがわかります。分娩時の難易は1(自然分娩)です。

冬季に自然分娩で死産という場合に多い事例は、朝の搾乳前に牛舎を見廻ったら、母牛のわきで、子牛が死んでいたというパターンです。自然分娩なので、生まれた後に寒さで凍死したのか、本当に死産だったのかはわかりません。しかし、この場合、牛群検定では「死産、自然分娩」と報告されることが多いものです。

皆さんも検定成績で昨年の冬季の分娩を見てください。もし、このように冬季の死産が多い場合は、今年の冬季の自然分娩は中止して、やはり分娩立会を行う必要があります。

～新生子牛の早期死亡？～

お手許の検定成績の裏面に「推定新生子牛早期死亡」という長い言葉の成績が記載されています。これは「出生した子牛が直ぐに死亡していないか？」を示す指標です。冬季は低温のため、適切なケアを行わないと生まれて数日で死亡してしまうケースがあります。検定成績表から実態を把握して、多い場合は対策を検討しましょう。

- ・ 検定成績表を参考にチェックしましょう！
①成績表の裏面の年間子牛生産状況の新生子牛早期死亡が5%を越えていませんか？（下図）
Yes No
→Yes 子牛は寒さに大変弱く、13度を下回ると死亡事故が増加すると言われています。哺育舎を含め子牛の防寒対策をチェックしましょう。

Yesの対象となった場合は、防寒対策を再点検する必要があります。

- ・ 牛舎環境・飼養管理をチェックしましょう！
②ジャケットやウオーマー等で子牛を保温していますか？
Yes No
→No 子牛は寒さに大変弱く、ジャケットやウオーマーは大変に有効です。

- ③牛舎（哺育舎）を密室にしていますか？
Yes No
→Yes 密室状態はアンモニアによる呼吸器障害（肺炎）を引き起こします。特に排泄量の増えてくる子牛は要注意です。保温と換気に配慮しましょう。

- ④牛床が濡れていませんか？
Yes No
→Yes 牛床が濡れていると不衛生で乳房炎の原因となる他、凍結による転倒事故や腹冷えによる下痢、風邪などの原因となります。

成績表裏面

年間子牛生産状況

母 牛	分娩数	推 定 数			推定新生子牛 早 期 死 亡
		3	※ 4	※ 5	
1 産	37	頭	35	頭	8.57%
2 産	34	頭	35	頭	0.00%
3 産以上	60	頭	57	頭	3.51%
計	131	頭	127	頭	3.94%